こうとう民報

2012年10月号 №96

江東区の職場・地域、議会などくらし・平和を守る運動をご紹介します。

発行
こうとう民報編集委員会
責任者　猪又　武夫
住所 江東区東陽2-3-5-203
電話3648-5155FAX3648-5137
ホームページ
http://www.koto-minpo.jp/

江東区職労第61回定期大会開催
区民が安心して暮らせる江東区を！

10月４日、江東区職労は、ティアラこうとうで第61回定期大会を開催しました。

区職労はこの一年間、公務員バッシングと山崎区政の「行財政改革計画」に基づく民営化や職員定数削減攻撃とたたかい、区民が安心して住める江東区づくりと職員の労働条件改善のために奮闘してきました。深刻化する高齢者の孤立問題では区職労が呼びかけ、「こうとう福祉プロジェクト」を立ち上げ、2年に及ぶ高齢者の実態調査と福祉の地域拠点づくりなどの提言を含め「老いても安心して暮らせるまちづくりをめざして」（最終報告書）をまとめました。（※２面）

また、地域春闘や原発ゼロをめざす運動にも積極的に参加してきました。

大会では、代議員から「学校用務委託は偽装請負だ。現業職員の新規採用を」「保育の公的責任を放棄する『子ども・子育て新システム』反対を」「区民の健康を守るため保健所機能の充実を」「原発ゼロをめざし再生可能なエネルギーの利用を」など切実な発言が相次ぎ、活発な討論が行われました。

大会は「江東区行財政改革計画」と対峙し、区民が安心して暮らせる区政をめざし、震災復興に名を借りた公務員人件費抑制攻撃に反対するたたかい、憲法を守り、平和な世界の実現と地球環境を守るたたかい、消費税増税に反対し社会保障を充実させるたたかいなどの運動方針を議決しました。

議会報告
学校選択制は見直しを

江東区に学校選択制が導入されて10年になりますが、弊害が大きくなり見直しを求める声が広がる中、区教育委員会は保護者や町会など地域のみなさんにもアンケートをとり、今後の方向性を出していくとしています。

学校規模に格差が

学校選択制は保護者や児童が「学校を選ぶ」ことで学校同士を競争させるという市場の競争原理を学校に持ち込んでスタートしました。

「特色ある学校づくり」でよい教育になると宣伝されましたが、実際に選ぶ理由は「校舎がきれい」「友達関係」や「あの子の行く学校には行かせたくない」などの風評によって学校規模での格差が広がり、学年一クラス数人となる学校ができる一方、定員いっぱいのマンモス校が生まれ、どちらも良好な教育環境とはなりません。

教育内容にもゆがみ

「学校選択制」による教育のゆがみも問題です。学力テストの結果で他校と比較する、運動や音楽、美術なども比較の対象となり、学校の序列化がすすむなかで、地域や学校ぐるみで点数や成果を追いかけて学校選択に振り回される状況は、一人ひとりの個性をのばし、お互いを高めあう本来の教育とはかけはなれて、校長先生が家庭訪問をしてこどもを集めるということまで起こっています。

地域と切り離される

とりわけ、地域からは「学校選択制」によって「学校との関係が遠くなった」「自分たちの学校という考えができなくなった」との声が当初から出されていました。

東日本大震災を経験し、深刻ないじめ問題が明らかになる中で改めて「地域のつながりの中で子供たちを見守る」「学校を中心に地域を作る」ことが必要だと言う声が強まりました。

住民参加で見直しを

共産党区議団は導入当初から「学校選択制」に反対してきました。

対応が急がれるいじめ問題でも「いじめ隠し」といわれる背景には、学校選択制はじめ学校評価制度や教員の評価制度、学力テストなどで、学校も先生も子供たちも競争させられて本来の教育活動が損なわれていることがあります。

区議団は、学校選択制を見直し、弾力的な指定校変更の運用と適切な学区域見直しを住民参加で行うことを求めています。

自治体に働く非正規労働者の待遇改善めざし
「非正規労働者大集会」開催！

9月21日、「来年こそ５年ぶりの賃上げを実現しよう！」と臨時・非常勤・民営化職場職員の労組「公共一般江東支部」が、江東区産業会館にて「9・21非正規労働者大集会」を開催し、集会には80名が参加。大きな成功を収めました。

非正規労働者の賃金は08年4月以来、据え置かれたままです。賃上げは、組合員の切実な要求になっています。

この間、東京の最低賃金は７３９円から８５０円に引き上げられています。

青年部では独自の調査を実施し発表。区内パート賃金は、１年間で９６１円から９６８円にアップしており、最賃引き上げの影響は明らかです。

区に対して、積極的に非正規の賃金に最賃引き上げを上乗せし、地域経済全体を底上げすべきだと要求しました。

区議会からも、共産党から菊池幸江区議、赤羽目たみお区議。民主党、市民の声の区議も参加しました。

あたたかい連帯のあいさつに、参加者一同、要求実現に向けて奮い立ちました。

潮騒

涼秋の訪れとともに年金機構から支払通知書が届きました。改めて天引きされた保険料や税の負担増に愕然としました▼支給額はへっているのに、介護・後期高齢者医療保険料と住民税が合計で10・25％も増え、支給額から45・45％も差引かれているのです▼あぜ上三和子都議は本会議の代表討論で、国保・介護など保険料のトリプル値上げで低福祉高負担の実態とOECDの勧告を示し、真逆の認識にしがみつく石原知事を批判しています▼大震災復興予算10・５兆円の財源は、25年間所得税２・１％と住民税均等１０００円の増税が充てられます。ところが被災地の復興と全く関係のない流用が大問題になっています▼例えば、電気自動車など省エネに役立つカーボン開発約16億円、シーシェパード対策や調査捕鯨18億円、各庁舎耐震化77億円、原子力関係の核融合研究施設42億円、国立競技場復旧１２億円、小笠原諸島防災５・３億円等々。「活気ある日本再生」が口実になっています。しかも被災地の再建をめざすグループへの補助申請予算は３分の１も削っています。▼法律家も指摘するように、国民の善意にかこつけた税金を「詐取・横領」する政治の横行は、絶対に許されることではありません。

「白魚と海苔」

概説 江東の歴史 (15)

葛飾北斎「武陽佃島」（富嶽三十六景）

家康は江戸に入った後、摂津（兵庫・大阪）佃村の漁民34人を呼びよせて、鉄砲洲の東の地(佃島）を与え、隅田川の白魚を献上させました。1719(享保４)年、佃島の漁民は今の牡丹３丁目に網干場を借りうけ、ここを佃町と称しました。彼らは佃島と佃町を根拠地として白魚をとっていました。（白魚とは10センチ程の半透明の食用魚）

その後、猟師町八か町に紀州と摂津の漁民たちが、浜十三か町とよばれる町を開きました。日本橋小田原町に魚市場ができると、魚会所や魚問屋の組合には深川の漁民も参加し、「江戸前」とよばれる江戸の近海物を市場に出しました。特に深川の名物は鰻でした。深川の漁民は佃島の漁民のように独占できる漁場をもっていなかったので、品川から行徳までの５か所を入会(共同漁場）とし、地元の漁民とはしばしば訴訟をおこしました。

深川沖や品川・大森方面でとった海苔は、牡丹町黒船稲荷あたりで干していました。海苔といえば浅草海苔が有名ですが、隅田川の内陸で海苔がとれるはずはありません。「武蔵なる浅草のりは名のみなり お心ざしの深川のもの 」という歌があります。しかし、江東の海苔栽培がさかんになるのは明治の終わりからで、昭和になると深川から砂町の海岸のいたる所で海苔を干している風景がみられました。第２次大戦後、石田波郷は牡丹町から古石場あたりを散歩して詠みました。

河岸も狭に海苔網干せりうららかに

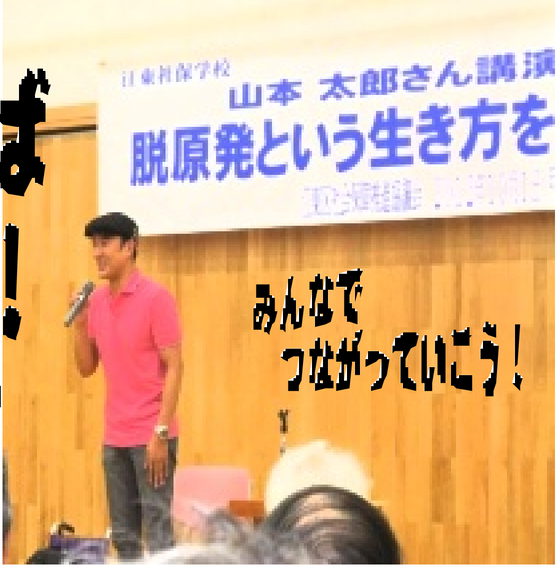
（注）牡丹町３丁目には漁民の神といわれる住吉神社があり、古石場２丁目には船の安全を守る金毘羅神社がありました。なお牡丹町１丁目の黒船稲荷は、オランダの黒船の船長が宿舎としたという浅草黒船町から、1732(享保17)年に移転してきたものです。

江東社保学校

みんなが声をあげれば止めることができる！

「いつも犠牲になるのは弱い立場にいる人たち」
「何もしなかったら一生後悔する」
～脱原発という生き方を語る～

俳優　山本 太郎さんが講演



10月1日、総合区民センターにて江東区社会保障推進協議会主催の江東社保学校が開かれ、「反原発、再稼働反対」の声を上げ活動をしている山本太郎さんが講演。脱原発の運動に参加したその思いが話され、会場あふれる２２６名が参加しました。

「ケガ人です（肉離れ）」と車椅子で登壇した山本太郎さん、大きな拍手と笑いで迎えられました。

昨年の３・11東日本大震災に東京で遭遇した山本太郎さん、福島原発の爆発事故の惨害と、何の準備もされていなかった事故対策を目の当たりにし、『脱原発』の声をあげたい！と考えるようになります。「でも一介の役者に何ができるか？」と葛藤を繰り返したそうです。

政治や宗教の問題は芸能界ではタブーになっているという山本さんが、それを乗り越えたのは、原発事故や放射能による健康被害が起きたときでした。「何もしなかったら一生後悔する」と、ツイッターで声を上げ、デモや集会に参加するようになりました。

山本さんは、再稼働をやめさせるために地元選出議員に、電話を掛け「原発に対する態度をはっきりさせ、推進派の議員はみんな落そう！」と訴えました。

最後に「政治はでたらめだけど、希望もあります。希望はみなさんです。デモや集会、インターネットを使って声をあげている一人ひとりです。まわりの人に声をかけて、つながりの輪をもっと大きく広げていきましょう！」と呼びかけました。

「第20回 平和を語る第五福竜丸のつどい」
未来には核兵器も原発もいらない！

9月23日、都立第五福竜丸展示館内で「第20回平和を語る第五福竜丸のつどい」が開かれました。

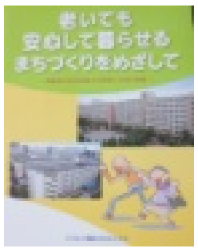
中村博世話人代表が挨拶。

「久保山愛吉さんの命日である９月23日に冥福を祈り、新たに進むべき道を示すために、このつどいを続けてまいりました。平和の声をますます大きくし、原発も核兵器も世界からなくしていきましょう」と訴えました。

つどいでは、朗読や音楽・舞踊、演芸などで交流。

午後からは、東京原水協の元事務局長・赤松広一さんが、ビキニ事件と原水爆禁止運動のこれまでのたたかいの歴史を語り、「今日のつどいを力に原水爆禁止の運動を強めましょう」と呼びかけました。

紹介「江東福祉プロジェクト最終報告書」



－高齢者の社会的孤立の実態と行政の役割－「老いても安心して暮らせるまちづくりをめざして」は○江東区職労組合事務所にて１０００円で頒布。お問合わせ（３６４７・１７７）○

東京土建江東支部　東京建築カレッジ技能文化祭

10月14日、「第15回東京建築ガレッジ技能文化祭」が江東区で開催され、建設職人をめざす青年の実習の成果を交流し合いました。

原爆と人間展
～この日を忘れない～

10月16日から18日まで、江東区原爆被害者の会（江友会）は「原爆と人間展」をカメリアプラザで開催しました。開催期間中500名以上が見学に訪れました。

行事日程

○11月3日（土）10時～『江東高齢者集会』総合区民センター
○11月4日（日）13時～16時『なんでも相談会』砂町文化センター・北砂公園
○11月13日（火）18時45分～『怒りの江東区民集会』江東大運動実行委員会、猿江公園出発
○11月18日（日）10時～『健康まつり』江東・健康友の会、森下文化センター
○11月22日（木）19時～『消費税増税学習会』江東各界連、東京土建江東支部会館
○11月23日（金）13時～『第40回定期大会』江東生活と健康を守る会、江東区民センター